

石川町交通不便地域解消プロジェクト(福島県石川町)

交通空白地帯から大型商業施設への ミニバスで高齢者の外出を促進する

INTERVIEW



交通空白地帯と大型商業施設を結ぶ

福島県石川町は周辺市町村とバス路線で結ばれ、交通の要となっている一方、バス路線が幹線道路沿いに放射状に走ることから、その間に位置する地区は交通空白地域となり、高齢者の外出促進のハードルとなっている。

本実証実験では沢田、山橋、中谷、母畑、野木沢の5つの交通空白地域と大型商業施設「メガステージ石川」を結ぶ8人乗車可能なミニバスを走らせ、高齢者の買い物を支援するものだ。事前登録を行った75歳以上の高齢者を対象とし、電話またはウェブでの予約によりミニバスが家の前に配車されるオンデマンド交通の仕組みだ。

「以前石川町で、別の形態で実証運行を実施しましたが、その際に実施したアンケートで買い物と通院の需要が高いことがわかったので、

本実証運行は買い物に特化する形としています(メガステージ石川に隣接している町役場等の施設での所用にも利用可能)。月～金曜をそれぞれ5つの地区に割り当てる形で、各地区週1日、午前午後で各1往復ずつ運行する形にしています。高齢者が対象ということもあり、可能な限りシンプルでわかりやすくしています。予約システムにはウェブ版も用意しましたが、現状80歳以上の登録者が多いことを考慮して、電話のみという状況になっています」(福島交通乗合営業部乗合営業課 金田覚氏)。

2023(令和5)年1月20日時点での登録者は51名で、一便で最大3名の乗合がなされている。「登録者が増えれば、乗合率はまだ伸びると思います。ゆったりと乗合わせできるくらいの人数を考えると、できれば5名程度は乗って欲しい」(金田氏)というように、利用率アッ

プにはPRも重要になる。

「広報活動は町役場が中心になって進めています。実際に地域に車をもって行って体験してもらう『乗り方教室』も実施しています。利用者の顔が見えることは大事ですし、少しでもミニバスに親しんでもらえれば、将来的な需要にもつながると考えています」（金田氏）。

路線バスとの乗り継ぎを促して持続可能な移動手段をつくる

ミニバスの運賃は片道300円だが、本実証実験の75才以上の対象者には交通ICカード「NORUCA」が無料配布されている。もっとも、持続可能な形で運営していくには、運賃以外のファイナンスの確保が課題となる。

「実証実験では、メガステージ石川の運営会社でもあるアクティブワンからの協賛金をいただいています。ただ協賛金に見合うにはまだ利用率が低い。もっと貢献度を上げてさらなるインセンティブを示す必要があると考えています。目的地を増やして、新たなパートナーを増やしていくことも視野に入れてはいますが、利

用状況やアンケート調査を参考にしながら引き続き検討していきたいです」（金田氏）。

もうひとつの課題が、ドライバーの確保だ。実証実験では福島交通が運転手も含めて運行を担っているが、最終的には地域住民が運転を担いながら維持していくことを目標としている。「今の便数であれば福島交通だけでも何とか回せるのですが、今後便数や目的地が増えると厳しくなってきます」（金田氏）というように、人材確保は重要なテーマとなる。

実証実験で使用しているミニバスには、他の路線バスと同じ機材が搭載されている。今回対象者にICカードが無料で配布されているのも、バスの乗り方に慣れてもらう目的があるためだ。

「ミニバスと路線バスを乗り継いでもらえれば、外出の行動範囲も広がります。他の公共交通と共存しながら、地域全体の持続可能な移動手段をつくっていくことが重要だと考えています」（金田氏）。

